

## 日大豊山水泳部の軌跡 9

昭和 60(1985)年、中学時代からオリンピック選手として活躍した渡辺健司氏が入学し、高校 1 年生からインターハイで活躍した。

100m・200m 平泳ぎで優勝、リレーでも活躍し、男子総合第 2 位に貢献した。



高校 2 年生のときには日本選手権で優勝、世界選手権・アジア大会の代表選手として選出された。

# 代表に選ばれて

渡辺

健司

豊山に入學して、あつという間に一年が過ぎました。昨年の今頃は、不安と期待でこゝも緊張しています。

今、世界選手権とアジア大会代表に選ばれ、入学前の最大の目標へ、一步踏み出すことができました。

先日観察で行われた選考会では自己ベストを出すことができまし

たが、タイムの原でもう少し反省する余地があると思います。帰宅してテープを見、これから八月の大会までに、ラップタイム、ストップなどをよく考え、納得のいく

結果の出せるよう、より一層の努力する覚悟でいます。

世界選手権は、オリンピックと同じ年に一度のチャンスです。

このようなチャンスに出席できることは、大変な名誉であり、幸せなことだと思います。

シリーズゼロ、「一秒タイムを縮めるにも、とにかく多くの人の心通い、必要なあらわさをもたらす」中井先生の言葉は、胸元に貼られ

ないと想います。先生方、クラスも薦めていく必要があると思いま

す。

昨年から始めた、筋力トレーニングの大切さもよくわかつてきました。水泳は限らないと思います

が、基本、基礎をじっくりやり、自分の定めた目標に向って、あせらず、しっかりと積み重ねていく

ことにより、自ら結果は出るものと信じています。精神面でも練習レースを通じて大切な時、自分

の最大の力を出せるよう、集中力

重なり、出場できないのが残念です。昨年の金賞での、あの香一丸

となつて舞山のために走り、応援

したことのあることはできませ

ん。今年も是非がんばってほしい

と願っています。

世界選手権、アジア大会は、

日本人の誇りを持ち、日本人として胸をはってレースに臨みたいと

思います。精一杯がんばります。

水泳部 岐阜県松江市・八月十  
日(八月六日(個人戦三年生  
七日(八月二十日 生 稲多川君)  
卓球部 山口県山口市・八月一  
ボクシング 広島県広島市・八  
月八日(八月十四日(個人  
戦二年生 深沼君))

## インターハイ出場

水泳部 岐阜県松江市・八月十  
日(八月六日(個人戦三年生  
七日(八月二十日 生 稲多川君)  
卓球部 山口県山口市・八月一  
ボクシング 広島県広島市・八  
月八日(八月十四日(個人  
戦二年生 深沼君))

体操部 岐阜県岐阜市・八月二

昭和 61(1986) 年のソウルで開かれたアジア大会では 200m 平泳ぎで優勝している。

その当時、男子チームコーチとして井上先生が帯同し、男子は 15 種目中、11 種目で優勝、日本記録も多数樹立された。



私は、第十四回アジア大会本決勝が入り、開幕までのアジア大会と、又本年は日本選手が銀を出し、私、姫枝の男子チームコーチとして参加。比較し専門性は大幅に減少すると、とては代表チームのコーチといふべき機会を得たが、本成が2回目。予想され、その翌年は銀三万九千枚の1位となり、また

その後渡辺氏はオリンピック選手として、昭和59(1984)年のロサンゼルス大会、昭和63(1988)年ソウル大会に出場し、平成4(1992)年バルセロナ大会では200m 平泳ぎで第7位に入賞した。

競泳の日大豊山水泳部関係者でオリンピックに3度出場した選手は、渡辺氏だけである。

昭和 61(1986)年は、2人のインターハイ優勝者を輩出した年である。

400m・1500m 自由形で優勝した遠藤昭一氏と 100m バタフライで優勝した磯英仁氏である。



磯氏のご子息である桜一朗君が平成29(2017)年現在、日大豊山高校1年に在籍している。

桜一朗君は中学校3年生の時に全国中学校大会に400mリレー選手として出場し、日大豊山中学の総合第2位に貢献した。

左から2番目が桜一朗君。





昭和 50 年代からスイミングクラブの活動が活発となり、昭和 58(1983)年から平成 7(1995)年まで近畿大学付属高校がインターハイ 13 連覇を続けた。

その間、日大豊山は学校水泳を継続し、総合第 2 位・第 3 位を守り続けていた。

平成元(1989)年には 100m バタフライで渡辺諭氏が優勝、野村英司氏が第 2 位、翌年には野村氏が 100m・200m バタフライで優勝した。

## 水泳部準優勝 =インターハイ= 各クラブも活躍



時 保	田和小林組は決闘だ。 「心配ほどの事、何時も何時も やうやくお仕事」と いいます。
水 泳 部	田和小林組は決闘だ。 「心配ほどの事、何時も何時も やうやくお仕事」と いいます。
卓 球 部	田和小林組は決闘だ。 「心配ほどの事、何時も何時も やうやくお仕事」と いいます。
道 兼 会 員	田和小林組は決闘だ。 「心配ほどの事、何時も何時も やうやくお仕事」と いいます。
体 操 部	田和小林組は決闘だ。 「心配ほどの事、何時も何時も やうやくお仕事」と いいます。

平成8(1996)年には総合第5位となつたが、その悔しさは翌年からの三連覇につながることになる。